

## 第48回電気通信産業功労賞受賞

2015年11月20日に開催された「第48回電気通信産業功労賞贈賞式」において、笹部 晃秀氏が「国内初のVoLTEサービスを提供したシステムを開発した功績」により、柴田 章弘氏が「災害時でも継続してネットワークの保守運用を可能とする広域分散オペレーションシステムの構成技術を確認した功績」によりそれぞれ電気通信産業功労賞を受賞しました。同賞は、電気通信技術の普及・啓発活動などに取り組む一般社団法人電気通信協会（昭和13年設立）が表彰しているもので、電気通信事業またはこれに関連する事業に従事し、創意工夫により業務改善をあげ、あるいは機器の開発・改良により、事業の発展に貢献された方の功績を顕彰するものです。

「国内初のVoLTEサービスを提供したシステムを開発した功績」については、FOMAのパケットサービスネットワーク、音声サービスのIP化と、長年にわたりネットワークのIP化開発に携わり、方式検討やネット

ワーク機器評価・導入に従事し、近年はLTEネットワーク上で高品質音声サービスを提供するVoLTE開発を主導し、2014年6月に国内初となるサービス提供に大きく貢献したことが評価され受賞となりました。

「災害時でも継続してネットワークの保守運用を可能とする広域分散オペレーションシステムの構成技術を確認した功績」については、移動通信ネットワークの保守運用、オペレーション装置の開発に長く従事し、マルチベンダ装置を効率的に保守運用できる統合オペレーション方式を実現し、近年はネットワークのIP-Flex化に携わり、ネットワーク構成情報変換システムを開発し、早期移行に大きく貢献した後に、大震災時でも継続して保守運用を可能とする広域分散オペレーションシステムの構成技術を確認し、通信ネットワークを安定して運用できるシステムの実現に大きく貢献したことが評価されて受賞となりました。

